

コード	402050801
記入日	H23.6.6

課コード	115
課名	農林課
課長名	幹 保孝
担当者	浜辺 伊三美

事務事業途中評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	診療獣医事業費
----------	---------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 ー 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	6
施策コード	402	施策名称	農林業の振興	項コード	1
基本事業コード	40205	基本事業名称	畜産の振興	目コード	4
事務事業コード	4020508	事務事業名称	診療獣医事業費	細目コード	607
関連計画	法令・条例規則等		新上五島町家畜診療所条例		

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象しているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標					
(対象1) 畜産農家		(対象指標1)	9戸				
(対象2)		(対象指標2)					
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	・家畜診療：39件 (365,500円) ・小動物診療：485件 (2,600,030円)	*****	*****	*****	家畜診療件数39件+前年度家畜診療件数78件	*****	
		①	家畜診療	39件	50%		平成22年度
		(達成率分析)	家畜診療及び畜産指導を行った。				
		*****	*****	*****	小動物診療485件+前年度小動物診療件数911件	*****	
		②	小動物診療	485件	53%		平成22年度
		(達成率分析)	住民サービス向上のため家畜以外の小動物の診療も行った。				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）					
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
・家畜診療及び畜産指導に関する業務を行うことにより、畜産振興を図る。また、離島である町内で唯一の臨床獣医師であるため、小動物診療にも一部対応する。		*****	*****	*****	実績開所日数165日+開所すべき日数249日	*****	
		①	開所日数	165日	66%		平成22年度
		(達成率分析)	医師不在となったため165日の開所となった。				
		②					
		(達成率分析)					

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 件	981	942	903	78	39					
	② 件	6,286	5,860	5,375	911	485					
成果指標	① 件	904	820	655	249	165					
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	58,630	54,604	45,595	13,035	9,009					
直接事業費 A	千円	55,130	51,104	42,795	12,335	8,309					
人件費 B	千円	3,500	3,500	2,800	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.5	0.5	0.4	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	58,630	54,604	45,595	13,035	9,009					

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	家畜の診療及び畜産指導のために必要である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	時代情勢や環境の変化に関係なく家畜診療は必要である。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	畜産農家の生産意欲の向上及び離島での小動物飼育者の利便性の向上が図られる。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	現制度にて充分である。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	診療機関として家畜診療所が存在しなかったら多大な影響がある。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	類似事業はない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	必要最小限の経費において遂行している。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	事業推進上できない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	適正である。

改善

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		有効性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		効率性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		課題に向けた改善策	特になし。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	診療体制の維持に努め、農家や住民の利便性につながるよう事業を進めること。
		効率性	経費の執行については適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。